加盟団体便り

一般財団法人 鳥取県水泳連盟

組織の充実・強化を図り連盟の発展を目指す

一般財団法人 鳥取県水泳連盟
総務委員長　横山　憲一

わが連盟は、法人化の行政改革に伴い財団法人化（1988年）以来の大改組となる一般財団法人化(2012年)を役員が一致団結して成就した。

同時期に民間スイミングクラブとの連携、公営水泳場の指名指定管理者の受託等で組織の充実強化を図った。

また、施設設置者の移行に伴って施設設備の整備も進められたことは連盟選手強化をはじめ各種事業運営に大きな力となった。

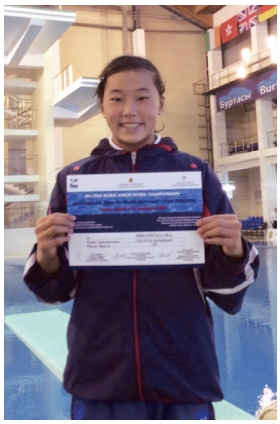
組織の役員についても競泳、飛込、水球の３競技が連携して世代交代が進められ、選手強化、競技運営､広報活動等に新たな取り組みが行われた。その結果各競技ともジュニア層で活躍する選手が、多数出現している。国際大会では、2014年世界ジュニア選手権､飛板飛込で三上紗也可が８位、2014年ジュニアパンパシフィック大会で武良竜也が200m平泳ぎ優勝、100m平泳ぎ２位と活躍したのをはじめ飛込競技、競泳競技の全国大会入賞選手が多く輩出された。

この好成績を維持し向上させるために従前から取り組んできた競技間の選手･指導者の連携､個々を大切にするきめ細やかで丁寧な対応を基盤に加え、一層指導者の意識高揚を図り、競技を超えて選手指導者の研修事業（４月初旬に開催する強化選手認定式及び研修)、年間優秀選手表彰式（３月末)、他県のトップ指導者・選手との交流事業、オリンピアンとの交流事業等を充実させる。

また、2014年～東京オリンピックプログラムとしてオリンピアン育成のための支援事業を始めている。従前本連盟の全国的な活躍競技は、飛込と水球に偏っていたが、地道な取り組みと積極的な取り組みでレベルの向上につながり、競泳競技に全国的に活躍できる選手が増えてきた。

ただ、競技人口が少ない本県においては、以前にもまして一人ひとりに適格な指導を進めることで選手の能力を最大限に発揮させる必要がある。また、ジュニア期の活躍を大きく育てる工夫も大切になってきている。それには、今後常に新たな気持ちで先述した各種連盟事業を持続できるよう、各指導者・役員が研究努力を積み重ねることが必要である。特にスイミングクラブ事業、指名指定管理者受託事業は、連盟活動推進のために連盟をあげて円滑な執行が必要不可欠である。

武良竜也



三上紗也可

また、要望し続けている屋内長水路プールの建設については、新たな考えも含め今後の大きな課題としている。

結びに連盟として

- 選手育成の基盤となる組織の充実強化のため行政、公益財団法人鳥取県体育協会、小、中、高体育連盟、各種団体等の関係団体との連携を今まで以上に積極的に進めていく。
- 水泳競技の普及と発展のため、各競技会のより魅力的な運営を工夫する。
- 組織運営及び広報活動を活発にするため、情報提供手段としてホームページの利用を活発にする。
- 連盟内組織の各委員会が、地道な活動に加えて柔軟かつ斬新な取り組みを進める。

等を掲げ前進していきたい。